

## 特集 2 豪雪関係予算について

勝山市は毎年、除雪のための予算を組んでおり、平成29年度は年度当初に1億2,656万9千円を計上していましたが、この冬は37年ぶりの豪雪となり、除雪に要した費用は総額で約5億1,400万円になりました。不足分は補正予算で対応することになりましたが、議会では除雪の予算や体制に関するこのほか、幅広い観点から議論が行われました。

特に、被害に遭われた市民の方々への見舞金制度について、人的被害と住家被害への支給金額を確認するとともに、高齢の方などに配慮する観点から手続きの簡素化を求める意見などが出されました。

また、一人住まいの高齢の方など、市全体で約1,900人登録されている災害時に支援を要する方への今回の豪雪時の対応にあたって、地域の方々の共助が大きな役割を果たしたことが確認されました。さらに民生委員の方が見守りや声掛けをするだけでなく、食品、日用品の買い出しや除雪までしていただくなど、支援を要する方々を献身的に支えていただいた事例が議員、市職員の双方から報告され、国から支給される民生委員報酬の見直しの必要性や、避難行動要支援者対策の充実、災害弱者対応などの議論が活発に行われました。



市内除雪の様子

## 特集 3 消防予算について

第5次勝山市総合計画では、安全安心に暮らせるまちの実現にむけて、地域防災の要として消防力の設備・整備が、重点項目として求められています。

今年度は、市民の防火意識の向上に努めるとともに、被害を最小限にとどめるために、消防機動力の向上にむけて消防車両の更新費用などの予算が計上されました。新しい消防車両は、従来の車両よりもタンク容量や消火装置が強化され、最新機能を有する車両となっています。

また、年々増加する救急対応についても、救急救命士・指導救急救命士の養成費用が認められました。

昭和から平成になり30年、現代の生活様式、住環境、都市機能などが大きく変化していく中で、防火、救急における設備や方法の改善、医療、研究、訓練などの対応は欠かすことができません。

さらに本年は雪害対策本部が設置されるほどの大雪になりました。降雪により埋もれた消火栓等の確保などについて報告されました。

## 特集 4 小中学校における働き方改革のための環境整備について

学校教職員のこれまでの働き方を見直し、限られた時間の中で、授業やその準備に集中できる時間、教師自らの専門性を高める研修時間、児童生徒と向きあえる時間等を確保するため、教員の負担軽減を図る予算が計上されました。

学習プリントなどの印刷や配布準備を教員に代わって行う授業準備補助として、学校運営支援員を各小中学校に配置する279万7千円が予算計上されました。国、県、市が3分の1ずつ負担し、原則各校1名、人数の多い学校では2名の支援員を配置します。

また、部活動の顧問をサポートするため、実技指導を行う部活動指導員を各中学校に配置する260万円の予算が計上されました。